

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日2006年 1月 31日

I 概要

実践団体・担当者名	高知県立高知東高等学校（担当者：谷内 康浩・小川 晴美）	
連絡先	高知県高知市一宮徳谷23-1 電話088（845）5751	
プランタイトル	校内教職員地震防災研修会 防災ゲーム（クロスロードの手法を用いて）を通して、災害時のイメージを広げよう！	
目的	クロスロードは、災害対応を自らの問題として考え、またさまざまな意見や価値観を参加者同士共有することを目的としています。参加者は、災害対応を自らの問題としてアクティブに考えることができ、かつ、自分とは異なる意見・価値観の存在に気づくことができます。	
プランの概略	【進行】 ①予想される南海地震の被害について・・・本校周辺はどうなる？（報告・質問）（20分） ②「クロスロード」についての説明（10分） ③ゲーム・結果発表（25分） ※問題は、既製のものの、既製のものをアレンジしたもの、自作ものを混在させた。 ④各グループでの話し合い（20分） ・指定された問題について、「クロスノート」（模造紙）に、グループで話し合ったことマジックで記入していく。 ・「クロスノート」が完成したら、他のそれぞれの問題についても、グループで話し合う ⑤グループごとに発表と解説（35分） ⑥各グループで、問題を作成、アンケートに答えて終了（20分）（流れ解散）	
プランの対象と参加人数	全教職員対象 44名	
実施日時	11月30日（水曜日）午後1時30分～3時40分	
主な実施場所	高知東高等学校 会議室	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	高知県危機管理課 高知県教育委員会児童生徒支援課 クロスロードサポーター事務局 ・慶應義塾大学商学部 吉川肇子さん ・京都大学防災研究所 矢守克也さん
	連携したきっかけ・理由	8月23日に実施された高知県教育委員会主催の「防災教育研修会」に参加した。 11月4日に実施された高知県危機管理課主催の「市町村職員等地震災害対応研修」に参加した。
	連携団体へのアプローチ方法	以前より面識があった
	連携団体との打合せ回数	研修会への参加しアドバイスをいただいた。 終了後、実践報告をした。
	連携団体との役割分担	情報提供

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	11名（校内地震防災プロジェクト委員会メンバー）
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	地震防災プロジェクト委員会委員 校長（1名） 教頭（2名） 事務長（1名） 教諭（6名） 実習助手（1名）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2005年5月
	立案時間	1時間×1回
	上記のうち打合せ回数	1回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○これまでの講義形式の研修会を改善すること。 ○できるだけ災害時のイメージづくりができるよう、「クロスロード」の手法を採用した。	
プラン立案で 苦労した点	○クロスロードの実践報告が少ないこと。	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	11名（校内地震防災プロジェクト委員会メンバー）
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	地震防災プロジェクト委員会委員 校長（1名） 教頭（2名） 事務長（1名） 教諭（6名） 実習助手（1名）
準備に要した日 数・時間	準備期間	2005年11月
	準備総時間	1時間×1回（日程等の打合せ） 1時間×3回（問題作成・印刷等）
	上記の内打合せ回数	1回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	

	どのように働きかけたか	
	結果	
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	教材： ○クロスロード個人票 ○YES/NO カード ○クロスノート（模造紙大） ○マジック ○景品（アメ玉、チョコレート）
	入手先・入手方法	文具品・景品以外は自作
	機材・教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	「クロスロード」の手法に基づく。
参加者の募集	募集方法	校内研修会の案内ビラ
	募集期間	2006年11月
	参加予想人数	60名（全教職員の3分の2を予定）
	実際の参加人数	44名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点・工夫した点		【工夫した点】 ○事前に「予想される南海地震」の被害について学習時間を入れた。 ○問題カードではなく、すべての問題を書いた1枚のシートを個々に準備し、各問いに対する自分の選択、グループでの結果を記入した。 ○座布団ではなく、景品としてアメ玉、チョコレートを使った。 ○個人のクロスノートではなく、模造紙大のクロスノートを準備し、各グループで1問を仕上げて発表した。個人については、上記のシートにメモ欄を設けて、そこに記入した。 ○学校の実態に見合った問題を作成した。

		【苦労した点】 ○クロスロードの問題を、既製のものに加え、学校向けのものを自作した点。
--	--	---

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月			
2005 1月			
2月			
3月			
4月			
5月	○5/31 第1回地震防災プロジェクト委員会で日程確認		
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月		11/4 高知県危機管理課主催の「市町村職員等地震災害対応研修」に参加 11/15 第6回地震防災プロジェクト委員会で内容の検討 ○準備物等の準備	11/30 校内地震防災研修会の実施
12月			
2006 1月			

V実践の詳細 【A. 素材】（メインとなる活動を45分を1コマとして記入して下さい。）

タイトル				
実施日				
所要時間	45分			
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

V実践の詳細 【B. イベント】（短期集中型のプログラムを 45 分を 1 コマとして記入して下さい。）

タイトル				
実施日				
所要時間	45 分	45 分	45 分	45 分
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】（継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。）

タイトル				
実施日				
所要時間	45 分	45 分	45 分	45 分
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

VI 実践後

参加者への アンケート結果	終了後、参加者にアンケートを実施した（抜粋） （１）今日の研修会は有意義でしたか？ ①有意義であった 40名（95.2%） ②どちらかと言えば有意義であった 2名（4.8%） ③どちらかと言えば有意義でなかった 0名（0%） ④有意義でなかった 0名（0%） （２）クロスロードをやってみて、多様な意見があると感じましたか？ ①感じた 33名（78.6%） ②どちらかと言えば感じた 9名（21.4%） ③どちらかと言えば感じなかった 0名（0%） ④感じなかった 0名（0%） （３）ゲーム時とゲーム後のグループ討議で自分の意見が変わった問題がありましたか？ ①ない 34名（81.0%） ②あった 8名（19.0%） （４）クロスロードを、LHRなどで本校の生徒に行うことについて、どう思いますか？ ①可能だと思う 20名（47.6%） ②工夫すれば可能だと思う 19名（45.2%） ③少し無理だと思う 2名（4.8%） ④全く無理だと思う 0名（0%） ① or ② 1名（2.4%） （５）学校の防災について、日頃思っていること、こんな事をしてほしい、ここが危ないなど自由に書いて下さい。 （６）今日の研修の率直な感想をお書き下さい。 （５）（６）については、研修を通しての防災意識が高まると同時に、災害時のイメージが広がった、意義のある研修であったなどの意見・感想が多かった。
成果として 得たこと	○アンケートや感想文からは、参加者の多くが、クロスロードの目的を達成したようである。 ○２日後に実施した地震に特化した防災避難誘導訓練で、成果を発揮した。 ○景品として、アメ玉等を使ったことで、場の雰囲気になごやかになり、力まずに話がすすんだ。また、残ったアメを玉を各部屋に持って帰ってもらったことで、欠席者との話題の種になった。 ○各グループでの１問のクロスノート（模造紙）の作成は、２０分をかけた班がほとんどであったが、より深い論議ができた。しかし、他の問題の討論の時間が保障できなかったが、後の各グループの発表で補えた部分はある。 ○各グループの発表後には、自然と拍手が起こり、よい雰囲気の中で研修ができた。 ○多くの参加者が、個人シートを使いメモを取っており、各グループの発表を聞きながら、自分の選択と比較して振り返りができた。
成果物	（学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。） ○実施要項 ○案内ビラ ○レジメ ○当日の配布物 ○アンケート結果 ○「クロスロード新聞」（第１号 ２００５年１２月２４日）

広報方法	広報した先	
	広報の方法	
	取材にきたマスコミ	
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	クロスロード新聞（発行：クロスロードサポーター事務局）に投稿、2005年12月24日（第1号）に掲載
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と 反省・課題	○初めての取り組みであったが、「クロスロード」の目的を達成できたと思われる。 ○災害時のイメージづくりには、有効な方法であることが検証できた。 ○2時間10分の研修であったが、参加者は時間を短く感じた者が多く、また参加型の研修の効果が確かめられた。 ○問題一つひとつの討論の時間が保障されれば、さらに効果はあると思うが、研修時間が長くなる問題もあり、さらなる工夫が必要である。 ○生徒を対象にした実践も可能であり、問題等を工夫して取り組むことを検討。	
今後の予定	来年度以降の進め方	アンケートでは「クロスロードを、LHRなどで本校の生徒に行うことについて、どう思いますか？」の質問に対して、 ①可能だと思う（47.6%） ②工夫すれば可能だと思う（45.2%） という結果も出ており、高校生を対象にした実践も研究し、実施したい。
	是非実施してみたい 取り組み	

自由記述